

あすなろ通信

No.195
2018-11



発行 高松あすなろの会

〒761-8081

香川県高松市成合町 559-15

<http://takamatsu-asunaro.org/>



フリーダイヤル サンキョー あすなろ
0120-39-0476

TEL 087-897-3211

FAX 087-885-2390

mail tu@tasnr.org

生活再建セミナー

LGBT のための気づきセミナー

心のブロックの外し方

～マイノリティーだから生きられる～

ふと考えてみる。

一体自分はどこから来て、どこへ向かっているのだろう。

いつの頃からか自分自身が嫌になっていた。

それ以上にまわりから注がれる視線がもっと嫌だった。

……肩の荷物を少し軽くしてみませんか。

11月30日（金）夜7時から

高松あすなろの会事務所

当会からのお願い

前々回のあすなろ通信に同封の「銀行カードローン法規制を求める請願書」の署名にご協力をお願い致します。

会費納入のお願い

☆当会の運営は、皆様の会費や寄付金（カンパ）で支えられています。

会費未納の方は納入をお願いします。カンパも宜しくお願い致します。

郵便局 01610-4-31210 口座名「あすなろの会」

百十四銀行 東支店（普）0234943 口座名「あすなろの会」

生きづらさを乗り越えて

～世間で騒いでいるLGBTって～

トランスジェンダー 木村アンリ

世の中には生きづらさを抱えた人たちがたくさんいます。ある人は自暴自棄になったり、ある人はそんな世の中と戦ったり。折り合いをつけながら生きる人もいます。でも多くは人生の途中から生きづらさを経験します。ところが生まれながらに生きづらさを背負ってくる人たちがいるのです。幼少期にそれを体験せざるを得ないのです。それが性的少数者、LGBTと呼ばれる人たちです。

保育園、幼稚園、小学校低学年すでに彼らは感じていて、服装や持ち物の色、遊び方で施設の規則に縛られます。いじめにあうこともあります。就職や結婚といった大きな節目には必ず、男の世界と女の世界を意識させられます。自分の意識と違う世界の役割を演じなければならぬことで人生に失望します。自殺を考え実行する場合があります。

最近、メディアでよく出てくる言葉ですが、多くの方はその意味を知りません。知っていても誤解だらけです。LGBTというのは性的少数者と言うことになります。TVでよく見かけるのは女装した男性でしょう。その人たちは1例ではあってもすべてではありません。またTVでは使ってはいけない言葉が頻繁に出てきます。「おかま」とか、その反対に「おなべ」もあります。他に「ホモ」「レズ」も当事者を侮辱する言葉となりました。

昔からいたのになぜ、今になってメディアが取り上げるのでしょうか？日本では2020年、東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。世界中から当事者を含め多くの人々が来ます。先進国では同性同士で結婚する権利が認められています。日本では、結婚どころか、性的少数者の働く権利、健康に生活する権利さえ法的には認められていません。性的少数者の人権の保護されていない国だとは思われたくないことも要因の一つだと思います。

例えば、愛し合う同性同士で一緒に住んでいて、お互いに共有財産があるとしましょう。万が一、片方が亡くなった場合、もう一方は相続もできません。そればかりか、住んでいる場所を追い出されることもあるのです。それは国内に同性のパートナー保護の法律がないからです。

私たちは民法や相続法などで生活や財産が守られています。憲法には個人が幸福を迫及する権利がうたわれています。性的少数者といわれる人たちは、法による保護を受けられなればかりか、周辺から偏見の目で見られたり、いじめにあったりしています。

では改めて言葉の説明をしましょう。LGBTの「L」は女性同性愛者のレズビアンで「G」は男性同性愛者のゲイをさします。「B」はバイセクシャルといって、両性愛者です。男性であれば性愛の対象は女性ですが、男性も対象になることがあります。LGBは誰を、どちらの性に心を惹かれるかというお話です。このことを「性的指向性」といいます。嗜好とは違うのです。よく誤解されるのが、嗜好性とか趣味だと思われていることなのです。自分の意思では変えることができない心のありようです。

Tはトランスジェンダーを指します。トランスというのは移行するということです。心の性と生まれた時の体の性が異なる人たちが一定割合存在します。最初に割り当てられた性では生きづらさを感じる場合、心の性に合わせて生活しようとしします。場合によっては手術やホルモン療法によって体を希望する性の形にする人もいます。性同一性障害と言って

いましたが、WHO（世界保健機構）は「性別違和」を使うようになりました。Tは自分の性を男性、女性のどちらだと思うか、ということで、LGBとジャンルが違うのです。このことを性自認といいます。

ほかに「Q」というのがあります。クエスチョニング、自分でもよくわからないという人たちです。「X」エックスジェンダーというジャンルの人もいます。自分の性を男でもなく女でもなく、または男でもあり、女でもある、または中性と思う人たちです。日本では最近Xジェンダーを名乗る若い人達が増えています。「A」ア・セクシャルと言いますが性的指向がない人もいます。どちらの性にもときめかない人達です。DSDs（ディーエスディーズ）というのは性分化疾患、またはインターセックスで、これは疾患名です。これらすべてを合わせてLGBTと総称しているのです。

性的少数者というのはどのくらいいると思いますか。ある広告代理店が2016年にインターネットを通じて10万人規模のアンケートを取りました。そこで出た数字は8%です。統計の回を重ねるごとに増えています。何となくそうかなと思っていたり、悩んでいた人たちもクリックするのだと思います。この数字だと日本では合計で1000万人を超えます。その多くの人たちが可視化できない状態にあります。表に出られない理由は個々それぞれですが、差別される、偏見にさらされる、職を失うなどが多いようです。家族や社会の理解もまだまだ得られにくいのです。

その理由は私たちの中に残っている古い価値観にあります。この世には男と女しかなくて、男は女を愛し、女は男を愛するものだ。それが当たり前で普通だという、いわゆる男女二元論。それ以外は異端で排除しなければならぬ、という考え方です。特にキリスト教、イスラム教文化では今なお人々の心に深く浸透しているのです。

日本は古代より比較的性に関してはおおらかというか寛容な国だったので、西洋のように歴史的に弾圧は在りませんでした。明治になってキリスト教文化が入ってきて、偏見、差別がみられるようになりました。今もLGBTの下からの運動の盛り上がりは欠けていて、それが先進諸国との間に差が生まれた理由だと思います。

最近、大きな変化がみられるようになりました。オリンピック・パラリンピック憲章に「性的指向性による差別の禁止」が掲げられています。国際社会の流れに乗り遅れないように、関係機関が動き始めたのです。北欧の早い国からだと30年の開きがあります。当事者にも意識の変化がやっと現れたとも思えます。社会全体として見るとまだまだです。

(次回に続く)